

「現在(いま)研究会」報告

報告者：福光瑞江さん

グローバリズムと世界公民——個人的経済人 VS. 類的公民——

日時：2012年3月10日(土) 場所：岡山県民会館

福光瑞江さんに、「グローバリズムと世界公民——個人的経済人 VS. 類的公民——」との題目で、哲学から世界の「現在」を診断していただきました。

グローバリズム=新自由主義は、「人類の福祉を実現するという類的目的をもたない、個としての経済人が行う単なる自己拡張現象」と定義され、かつてのレーガンやサッチャーの国家による政策の枠を突き抜けていまや国家をも翻弄し、世界=社会を「アナキー」に陥れ「統治不能」の状態を生み出していると診断されます。それに対する処方箋として、カントのいう「人類の福祉」を実現する「道徳的=法的社会の担い手」としての「世界公民」を、人類の思想的遺産を再発掘してより現代に有効な概念として再構成することによって対処できるのではないか、というのが報告の主眼でした。

こうした思想的遺産をどこに求めるのか、慣習から「コンベンション」へと形成される道徳的主体が、いかにして法的主体としての「世界公民」として形成され得るのか、それは世界レベルでの民主主義ではないか、など活発な議論が交わされました。(小畑)

岡映の部落差別起源論

岡映研 報告者水島博さん

部落差別の起源については、現在大きく言って「政治起源論」「職業起源論」「宗教

起源論」などが指摘されている。

岡映は、部落差別の「起源」をどのように捉えているのだろうか。また、1975年の国民融合論の提唱は、差別起源論に対しても、ある種の影響を及ぼしているようにも見える。岡映の「国民融合論」に対するスタンスと、「差別起源論」に対する理解はどのようなものであったのだろうか。

こうした問題に精緻な資料読解によって応えようとするのが、今回の水島さんの報告である。

水島さんは、『部落の歴史と社会性』(1975年)、『入門部落解放』(1965年)、『現代の部落解放運動』(1966年)、『統一戦線と部落解放運動』(1970年)、『民主主義と部落解放運動』(1976年)十日の差別起源論を年代を追って検討される。

そして結論的に言って、その起源論は、階級起源論というに帰する。「政治的側面から言えば、分裂支配のシクミです。」という文章が、岡の差別起源論を語ってあまりある、というのが本報告の結論であった。

イレブンアクション4月企画

廣本悦子さんに聞く

とき：2012年4月11日(水) 18時  
30分～

ところ：岡山市勤労福祉センター5階第3  
会議室